

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされておりますので、保護者様・来訪者様等の閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

平成28年度 東京都福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

2017年4月26日

社会福祉法人森友会
やさしい森保育園

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号

機構 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 清水 康之



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	②	H1501067	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	③	H0803017	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	④	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	⑤	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	やさしい森保育園			
事業所連絡先	〒	187-0011		
	所在地	東京都小平市鈴木町1丁目463番1号		
	TEL	042-312-0894		
事業所代表者氏名	森山 和幸			
契約日	2016年 10月 1日			
利用者調査票配布日(実施日)	2016年 10月 31日			
利用者調査結果報告日	2017年 1月 17日			
自己評価の調査票配布日	2016年 10月 27日			
自己評価結果報告日	2017年 1月 17日			
訪問調査日	2017年 1月 23日			
評価合議日	2017年 1月 23日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査実施にあたっては、開始時に調査の趣旨などを記した依頼状の配付やポスター掲示などで理解促進を図るとともに、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付するほか、必要に応じ提出期限を延長するなどして回収率向上に努めた。 事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。			

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p>
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)すべての子どもが今を幸せに生き、すべての子どもに明日を生きる力を育てる。 2)すべての子どもが、自分の流れで園生活を楽しむ。 3)すべての子どもが、無理なく自立への道を進む。 4)すべての子どもが、協力・協働の喜びを知る。 5)すべての子どもが、自分なりに表現を楽しんで発表する。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p>
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>「すべての子どもの最善の利益」を目指すためには何よりも、子ども一人一人の存在そのものを愛し、子どもの人格を尊重出来る人材でなければならない。また保育の仕事は一人でやれる仕事ではなく、利用者のみならず、職員間の思いを理解するのが大事である。相手と協力して仕事をする事に喜びをもち、相手から学ぶことのできる人、相手に 思いやりを持って人を求めている。</p>
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>保育所の職員は常に、全ての立ち振る舞いや言動が子どもの手本である事を意識し、日々の保育にあたって欲しい。また「子どもの命を預かる」ことを常に実感し、専門知識を学び現状に満足せず質の高さを追求しなければならない。明日の社会を担う人間を育てる大事な仕事であることの自覚と誇りを持ち施設や利用者と共に成長して欲しい。</p>

調査対象	調査開始時点での本園の利用世帯57(在籍児童数64)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。
調査方法	調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は事業所と協議のうえ郵送または郵送と事業所内での回収との併用にて行い、結果は選択式・自由記述とも園に報告した。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。
利用者総数	57
共通評価項目による調査対象者数	57
共通評価項目による調査の有効回答者数	35
利用者総数に対する回答者割合(%)	61.4

利用者調査全体のコメント

総合的な園に対する満足度は「大変満足」51.4%・「満足」40.0%の計91.4%と高い値を得ており、設問別では「急な残業等への配慮」「配慮された行事日程」「傾聴姿勢」など全16問中12問で80～100%の高い支持を得ている。自由意見では「異年齢保育は子どもにとっても刺激になり、下の年齢の子達には優しく接することが自然と身に付いてとてもよく、園の雰囲気もよくて急な事柄にも先生方も迅速に気持ちよく対応してくれるのでとても助かっている」「急な時間延長や土曜保育などにも対応してくれてとても助かっており、先生方もよい人ばかりで毎日安心している」「連絡帳はどの先生に書いてもらっても園での様子が伝わり、子どもの家の様子から充実した指導の成果が片付けや挨拶などから感じられ、安心して子どもを預けられる」などの声が寄せられている。さらなる向上を望む意見としては、保育・行事内容、子どもの様子の報告・説明、安全管理・保健衛生、保護者の負担・就労等への配慮に関する内容などが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いいない	いいえ	無回答 非該当
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	31	3	1	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が88.6%、「どちらともいいない」が8.6%、「いいえ」が2.9%となっている。 自由意見は5件で、「園内に当日の食事が展示してあり、保護者も食事の内容がわかりやすい」「園内で作っていることはとてもよいことだと思う」「いつも助かっている」のほか、食事の内容等について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	21	9	5	0
「はい」が60.0%、「どちらともいいない」が25.7%、「いいえ」が14.3%となっており、昨年度(「はい」44.2%)に比べて改善が見られる。 自由意見は12件で、「子どもの様子を見てみると、戸外遊びを非常に楽しみにしていて十分に体を動かせる園庭がある」「室内での遊びが好きな方ではあるが、近くまで散歩等に行っている」「園庭は狭いが、さまざまな遊具をそろえて工夫している」などのほか、戸外活動のさらなる充実を望む内容が見られる。				
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	31	0	0	4
有効回答者31人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は、「とても助かっている」「これこそやさしい森保育園ではとてもよく対応している」など、3件とも肯定的な意見であった。				

4. 安全対策が十分取られていると思うか	29	5	0	1
「はい」が85.3%、「どちらともいえない」が14.7%となっている。 自由意見は3件で、保育中の安全管理や外部侵入対策について、気になる点や要望が挙げられている。				
5. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	34	1	0	0
「はい」が97.1%、「どちらともいえない」が2.9%となっている。 自由意見は、「他の兄弟も楽しめる内容になっていて、家族を連れて参加しやすい」「イベントは週末で、平日の保護者会も複数の希望日を出せたりと助かっている」の2件とも肯定的な意見であった。				
6. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	26	7	2	0
「はい」が74.3%、「どちらともいえない」が20.0%、「いいえ」が5.7%となっている。 自由意見は6件で、「本当によく子どものことを見ていてくれ、目標を持って指導してくれていると感じられる先生もいる」「とても相談しやすい」のほか、コミュニケーション機会の設定や日頃の子どもの様子などの伝達・報告などについて、さらなる配慮を求める内容があった。				
7. 職員は保護者の考えを聞く姿勢があるか	31	2	1	1
「はい」が91.2%、「どちらともいえない」が5.9%、「いいえ」が2.9%となっている。 自由意見は記入がなかった。				
8. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	30	5	0	0
「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が14.3%となっている。 自由意見は4件で、各室内の清掃や衛生管理について、さらなる向上を求める内容が寄せられている。				
9. 職員の接遇・態度は適切か	29	5	1	0
「はい」が82.9%、「どちらともいえない」が14.3%、「いいえ」が2.9%となっている。 自由意見は5件で、「自身がかたい仕事なので何もできないが、仕事に支障がなければ何でもよいと思う」のほか、職員の接遇マナーや服装・身だしなみ等について、さらなる配慮を求める内容があった。				
10. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	31	4	0	0
「はい」が88.6%、「どちらともいえない」が11.4%となっている。 自由意見は6件で、「担当の先生は親身になってくれているのでありがたい」「保健師が優しくて丁寧なので安心感がある」「すぐに報告してくれ小さなケガでも状況の説明がある」などのほか、ケガや体調急変等の把握・対応、連絡などについて、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				

11. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	24	7	1	3
「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が21.9%、「いいえ」が3.1%となっている。 自由意見は5件で、「まだないが、一方的にやられた時はしっかり話してもらえていると思う」のほか、子ども間のいさかい等の際の保護者への情報提供、子ども一人ひとりへの配慮や目配りなどについて、さらなる向上を求める内容が見られる。				
12. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	30	2	1	2
「はい」が90.9%、「どちらともいえない」が6.1%、「いいえ」が3.0%となっている。 自由意見は、「これは大勢であるし、難しいことだと思うが、子どもは先生のことは好きなので対応していると思う」の1件があった。				
13. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	25	4	1	5
「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が13.3%、「いいえ」が3.3%となっている。 自由意見は記入がなかった。				
14. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	31	2	2	0
「はい」が88.6%、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が5.7%となっている。 自由意見は、子どもの様子や保育内容等に関する保護者への報告について、さらなる検討を求める声が1件あった。				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	28	4	1	2
「はい」が84.8%、「どちらともいえない」が12.1%、「いいえ」が3.0%となっている。 自由意見は、不満・要望等に対する傾聴姿勢や柔軟な対応について、さらなる配慮を望む内容が2件あった。				
16. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	17	2	3	13
「はい」が77.3%、「どちらともいえない」が9.1%、「いいえ」が13.6%となっており、昨年度(「はい」50.0%)に比べて改善が見られる。 自由意見は、外部の意見窓口の周知について、さらなる向上を求める声が1件あった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 9/9
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	保育の理念・目標・方針などが、さまざまな機会に保護者・職員に伝えられている 法人としての福祉・保育における基本姿勢、保育の理念・目標をホームページに掲げている。これらは法人の系列全園で保育実践の基盤におく「営める保育」と併せ、「職員の心得マニュアル」に具体的な説明や想定する保育のイメージ等とともに記載し、入職時の研修でも言及することで職員への周知を図っている。また系列園同士の職員交流「互見会」などの法人内の各研修でも実務の観点でこれらの実践を確認している。保護者には見学・入園時の説明によって伝えるとともに、毎月の園便りにおいても理念等を意識した情報を発信している。	
	現場主体の個人・組織力の発揮ができる組織づくりと保護者支援に努めている 「職員の心得マニュアル」中の職務分担表に園長の職責が示されている。保育においては主任・リーダーなどの上位職者に権限を委譲しながらも、最終責任は園長がとることを伝え、それぞれの職務を全うしやすいようにするほか、現場が自発的に創意工夫し、それぞれの主体性を尊重したマネジメントに努め、一人ひとりの能力が発揮できる組織づくりを行っている。保護者に対しては日頃から声掛け等でコミュニケーションを図り、就労等への配慮と支援に努めつつも、寄せられた要望等への誠実な対応と園として可能な改善に取り組んでいる。	
	法人・園レベルでの重要案件の検討・決定と伝達の仕組みが整えられている 法人レベルの検討は毎月の都内各園合同の園長会、法人の理事会や九州各園を含めた全園長会においてなされている。園内での重要案件については、リーダー等が各クラスの職員の意見を持ち寄り、園長との協議のうえで、職員会議で決定・周知を図る仕組みとなっている。またこれらの決定事項等は「コミュニケーションノート」や事務所の掲示板も活用して、非常勤の職員も含めて園全体での情報共有を図っている。保護者に対しては必要に応じて園内の掲示や園便りでの報告、登降園管理システムによる周知などが行われている。	

カテゴリ-2		
2 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(2-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/7
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある		評点(○●)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している		評点(○○○)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 地域の関係機関との連携を図っている		評点(○○)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー2の講評		
社会人・保育士としての守るべき倫理・規範に関する職員への啓発をしている 入職時の研修において「よき保育者になるために」を教材とし、服装・身だしなみや子ども・保護者への接遇、人権への配慮や個人情報保護など、保育所の職員としての心構えを確認させている。全職員が所持する「職員の心得マニュアル」にもこれらを含む社会人・保育士としての基本心得やその具体説明、用語のNG/OK例が記されている。なお、園長からは年度末・当初などで職員間での接遇マナー、相互の尊重した人間関係の構築、安全管理の意識啓発など、随所での指導がなされている。		
地域に対して、園の情報の発信や可能な専門機能の提供を行っている 市のホームページや市内の保育所団体の情報誌への情報掲載などのほか、今年度は第三者評価の受審・公表に取り組んでいる。また見学者への育児相談の対応や定期利用保育事業の受け入れなどを行うほか、待機児童の解消の一助となるべく、基準の範囲内での積極的な子どもの受け入れを行っている。これらを優先的に行ってきたことに加え、地域との連携等にも注力しながら関係性を深めつつあるため、今後の地域ニーズを踏まえた園の持てる専門性の還元に向けた園として実施可能な企画の検討等も一考されたい。		
ボランティア等の受け入れや地域ネットワークとの連携にも取り組んでいる ボランティア等の受け入れマニュアルや説明用の書面が整備されており、今年度は近隣の中学校から職場体験生の受け入れも行ってきている。市私立保育園協会主催の園長会の中では、園長グループ同士の部会活動として保育所案内冊子の制作や各種研修の企画などに協力するほか、主任・保健・給食の連絡会も年間複数回設けられ、情報共有や課題検討がなされている。また市の要保護児童対策地域協議会で要支援児・家庭への対応などに関する対策検討に加わっている。さらに近隣小学校の行事等に園長が参加するなどの連携を図り、体育館の利用の協力も得ている。		

カテゴリ3	
3 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
サブカテゴリ1(3-1)	
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 8/8
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) 評点(〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている
○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
○非該当	
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる
○非該当	
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している
○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる
○非該当	
評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる
○非該当	
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる
○非該当	
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している
○非該当	
カテゴリ3の講評	
個別の保護者からの要望等を把握する仕組みを整え、対応や解決にあたっている 第三者委員を含む苦情解決制度を整備し、「入園のしおり」への記載と入園時の説明、玄関での掲示などによって保護者に対して同制度の周知を図っている。また日常の会話や連絡帳でのやり取りなどでも要望等を収集できるようにするほか、玄関に意見箱を設置し、口頭以外での方法でも気兼ねなく要望等を受け付ける姿勢が示されている。これらによって把握したものを含め、保護者の個別の意見は適宜、職員間で検討し、個別のものは個別に、全体的なことは掲示等でフィードバックする仕組みとしている。	
保護者の全体的な意向の把握に取り組み、改善に活かしている 定期的に都の利用者調査制度を活用するほか、夕涼みや「もりんびっく」(運動会)など主な行事の開催後にも書面で保護者から感想や要望などを把握しており、職員間で回覧のうえ、次年度の行事の参考としている。具体的な改善事例として、とうもろこし・ブルーベリーの収穫ではチケット制にして炎天下での待機時間や混雑の緩和につなげるほか、0歳児の発表会を別に開催して保護者・子どもの待ち時間の軽減を図った。また「もりんびっく」でのプログラムの見直しによって時間の短縮するなど、行事の担当が前年度の反省を踏まえ、改善につなげている。	
保育・福祉に係る政策・制度の動向を把握し、職員に必要な情報を伝えている 市の園長会で福祉・保育の施策や制度の情報を把握するほか、市の随時のファクス・メール等、関係の各団体の随時の通信物からも情報を収集している。また入職時の研修において法人の理事長より近年の保育制度・業界の動向や今後懸念される経営リスク等が説明されるほか、今般の職員処遇の改善などについては職員会議で園長から話をするなど周知を図っている。地域ニーズの収集に関しては園長による園周辺の定期的な挨拶回りを行ったり、見学の受け入れにて把握しているものの、身近な地域の子育て家庭の声をより詳細に把握する工夫が課題と思われる。	

カテゴリ4		
4 計画の策定と着実な実行		
サブカテゴリ1(4-1)		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 11/11
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○非該当
評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

サブカテゴリ2(4-2)		
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>法人の中・長期的な事業方針を踏まえ、年度の事業計画が作成されている</p> <p>法人が31年度までの5か年の事業計画を策定しており、社会福祉法人制度改革などの事業環境を踏まえた法人としての重点課題と主な取組事項、目標水準と達成時期を定めている。中堅リーダー層の育成と法人内でのキャリアアップなど全体的な構想を検討しているため、今後の具体的な園の中長期的展望の可視化も検討の余地がある。なお、当園の年間事業計画を作成しており、重点項目で「『営める保育』の実践、人材育成、保育の質の向上、職場環境の充実などを掲げているほか、年間の行事計画・防災・防犯計画などもあり、職員に周知を図っている。</p> <p>行事や委員会活動において立案・実行・見直しなどの一連の取組が行われている</p> <p>行事・訓練や日常の保育など月・日単位の各活動では所定の書式に計画が立案され、実践と職員による反省、次の企画までの仕組みを整えている。「もりんびっく」をはじめとする主要行事では保護者の意向把握、開催準備の進捗管理なども行われ、着実な実行や質の確保が図られている。計画の立案に関しては担当が行事の担当が前年度の反省を踏まえ、改善につなげている。また委員会活動も行っており、安全・保育・環境・広報、保健・衛生などの委員会を設け、非常勤も参加してマニュアルの見直し等に取り組み、職員会議の際に各活動の報告を行っている。</p> <p>各種の防災・防犯対策や独自マニュアルの整備など、安全の確保・向上に取り組んでいる</p> <p>法人共通のマニュアルのほかに、当園独自の安全管理マニュアルを整備し、防災の役割分担や救急通報手順などを掲示するほか、AED・防犯カメラも設置している。また市からの感染症の流行情報等を看護師が園内に掲示するとともに、職員への周知を図っている。消火訓練と不審者対応を毎月組み合わせて行い、散歩中の災害発生や園内への不審者侵入など、実務を想定した各種ケースで対応を確認している。また保護者にも適宜実施協力を依頼し、新たなシステムを活用した一斉メール配信を行うなど、有事の際の確実な連携に備えている。</p>		

カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/8
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる		評点(〇〇●●●)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-5の講評		
<p>法人としての職員の募集・採用等の仕組みを整え、必要な人材の確保に努めている</p> <p>職員の採用においては、法人の理念「すべての子どもの最善の利益のために」や系列全園で実践する「誉める保育」への共感、各園で展開するチーム制の保育実践に順応できる協調性やコミュニケーション力などを重視し、常勤職員は書類・筆記及び実技試験・面接による選考を基本に法人または関東統括園長が採否及び配属を決定し、非常勤者は各園での採用としている。園内での配置はリーダー層の意見も聞きながら合議をするとともに、当人の意向やクラス・組織内の状況などを勘案したうえで、最終的に園長が決定している。</p> <p>個人と組織の能力の向上・発揮を促進し、就労環境整備にも取り組んでいる</p> <p>職務分担表が定められ、就業規則では職務上の権限の逸脱・乱用を戒め、必要に応じ主任・園長の判断を仰ぐことを求めている。また職員の判断基準や上司への確認事項なども明確に示しつつ、それぞれの職員が主体的に判断できる環境づくりに努め、個人の能力発揮を後押ししている。その他にも、理事長表彰制度や経験や年齢によらない柔軟な昇格など、職員の貢献や成長に応じた報酬・評価の取組のほか、退職金・休暇等の各制度や各種費用の負担・補助、懇親イベントの開催など、福利厚生面の整備もなされている。</p> <p>園全体の年間の研修計画を定め、各職員の成長課題を面談によって把握している</p> <p>園内の年間の分野別の指導や内部研鑽について、毎月の行事や訓練の予定と併せて「職員指導計画」に一覧化するほか、園長と各職員との面談によって労働環境も含めた各人の意向・要望、職員としての目標や成長・啓発希望などを把握し、これをもとに個別の指導や研修への派遣などを行うこととなっている。これら一連の流れと実績を可視化し、継続的に管理するための個別の計画様式等の整備などが課題と思われる。なお、都内系列園合同で行う法人内の階層別の研修、「互見会」や九州地域の系列園への視察見学など現場に即した研鑽も行っている。</p>		

カテゴリ-7		
7	情報の保護・共有	
サブカテゴリ-1(7-1)		
情報の保護・共有に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-7の講評		
各種情報の効率的な利用とデータの管理の徹底に努めている 各PCには固有のパスワードをそれぞれ設定するとともに、情報はデータサーバで共有し、各PCには保存しないこととしているほか、系列園間でのクラウド上でのデータ共有も行われており、園長のみログイン権限が付与されるほか、登降園システムには個人別でのID付与がされるなど、データ情報の活用と適正管理の両立が図られている。各種書類は個人情報記載の帳票については事務室で管理しているものの、機密性に応じた適宜の施錠保管の検討もしている。なお、紙ベースからデータ化での共有も進め、利便性の向上に努めている。		
保護者への利用目的の説明とボランティア等への個人情報保護の徹底の促しを行っている 保護者に対し、「入園のしおり」において個人情報・プライバシーの保護に係る園の取り扱いの指針を示し、個人情報の利用目的として保育提供から各種事務管理までの用途を記載した書面とともに入園時に説明し、記名押印を受けることで同意確認としている。法令に定める自己情報の開示については、法人の個人情報管理規程に対応方針を定めており、その保護者への積極的な通知については検討課題としている。ボランティア等に対しては法人共通の受け入れマニュアルや説明用書面によって秘密保持を求めている。		

カテゴリ-8	
8 カテゴリ-1～7に関する活動成果	
サブカテゴリ-1(8-1)	
前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
評価項目1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリ-1で評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ-1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ-2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ-4:「計画の策定と着実な実行」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果 安全面の強化や地域との関係を深める取組が進められている 法人内では系列園園長を構成員とする「保育の質を向上する委員会」を通じ、安全衛生面の事例や情報の共有と意見交換、法人として共通を目指す保育の徹底の確認など、安全の確保・向上や理念・方針等の浸透と実践に向けた組織的な取組が継続的に実施されている。園内においても委員会活動が活発化し、安全面を中心としたマニュアルの整備が進められている。また近隣小学校の行事等に園長が参加するなどの連携を図り、体育館の利用の協力も得るほか、近隣の中学校から職場体験生の受け入れも実現するなど、地域との連携が深まりつつある。	
サブカテゴリ-2(8-2)	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
評価項目1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリ-1で評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ-5:「職員と組織の能力向上」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果 個人の能力発揮ができる組織づくりや処遇面の向上に取り組んでいる 職員が自分で考えて行動し、それを褒められて次のチャレンジができるような環境を整えつつ、自主性の幅を広げられるようにしており、面談や日々のコミュニケーション等を通じて園内での疑問点等を聴き取り、それを解決できるような支援を行うほか、経験年数等に縛られることなく、会議等での活発な意見交換ができる組織風土の醸成に努めている。また有識者を招いて分野別に保育の知見を深める法人内研修に加え、提携する法人の支援を得て行う「誉める保育園見学会」や法人内の主任保育士を中心とした「互見会」では、他園の視察と実施後の振り返りによって保育の環境・実践両面の研鑽がなされている。さらに3年目以上の職員を対象としたオペレッタ研修など、園・法人の各レベルで多様な機会を通じた資質向上が図られている。法人においても給与表の改定や国・自治体の制度を踏まえた賃金改善、希望者を対象とした確定拠出年金制度の導入など、処遇面の向上がなされている。	
サブカテゴリ-3(8-3)	
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
評価項目1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリ-1で評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ-6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ-7:「情報の保護・共有」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果 情報管理における利便向上や保育面でのさまざまな改善が行われている 情報管理面では、各種書類の整理・移動や処分を年度開始時などに行い、必要の際のスムーズな検索と閲覧につなげるほか、保護者との日常の連絡や登降園管理を行うためのシステムを系列全園で順次導入し、園・保護者双方の事務負担の軽減と各種連絡の円滑化を図っている。また警察に協力を得て行う職員に対する防犯訓練については今年度はさすまをを使用した指導を受け、その後に安全委員会での話し合いから当園独自に「安全マニュアル」が作成され、職員に周知を図っている。また保育委員会では、砂場での水遊びや園庭での遊び方、室内での職員の動き方などを検討し、これらに関するマニュアルの作成と職員への配付を行うなど委員会を中心とした検討と組織内での認識を深める取組が進められている。さらに保護者の意見を踏まえた行事における改善にも取り組むなど、より良い運営ができるようにさまざまな工夫が行われている。	

サブカテゴリ4(8-4)	
事業所の財政等において向上している	
評価項目1	
財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
無駄な経費の削減と収入面での安定化を図り、収支バランスの最適化が行われている 待機児童の解消の一助となるべく積極的な園児の受け入れを行いながら、安定的な収入の確保とつなげている。また年間及び月次の予算策定・執行は法人本部との連携のもとで行い、園単位では節電・節水や裏紙の活用をはじめとする省資源化の励行、各種日用品・消耗品等の購入・調達の際の在庫や価格・購入方法の検討など、経費の抑制と職員のコスト意識の啓発を行っている。法人においても複数園運営のスケールメリットを活かした各種調達の際の価格交渉など、経済性と質の維持の両立に配慮がなされている。	
サブカテゴリ5(8-5)	
前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している ・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
保護者からの要望等を把握し、園運営の改善に活かしている さまざまな機会や窓口を通じて寄せられた保護者の声を活かし、運営や保育・行事の改善に取り組んでいる。 保護者の意見を踏まえ、とうもろこし・ブルーベリーの収穫ではチケット制にして炎天下での待機時間や混雑の緩和につなげたり、「もりんびっく」(運動会)でのプログラムの見直しによって時間の短縮をするほか、0歳児の発表会を別に開催して保護者・子どもの待ち時間の軽減を図るなど、具体的な改善事例が見られた。	

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>ホームページや「園のしおり」を作成し、利用希望者に園の情報を提供している</p> <p>ホームページ(以下、「HP」)では、「すべての子どもの最善の利益のために」という理念を掲げ、保育の目標・計画・内容といった園で提供しているサービスの内容や、各種の便り、給食献立表も見ることができるほか、日々の活動の様子等を写真入りのブログで月に3~4回発信し、わかりやすく紹介している。また、保育する対象年齢や定員、保育時間といった園の概要や保育目標、一日の流れなどの園利用に際して必要となる事項をまとめた「園のしおり」を作成し、見学に来た保護者に渡している。</p> <p>市の各種媒体を通じて園の情報を発信し、園見学につなげている</p> <p>小平市のHPの市内私立保育園一覧には住所・電話番号・定員・保育対象といった基本情報を記載しているほか、上記園のHPに直接アクセスできるリンクも設定されている。また、市が作成した子育て中の方にとって必要な情報をあつめた案内冊子である「小平市子育てガイド」に当園の情報が掲載されている。市の掲示板には園見학을個別に対応している旨が記されており、問い合わせがあった際にはなるべく園見学を勧め、園の方針や特色などを積極的に伝えられるようにしている。</p> <p>園見学は随時行っており、利用希望者に園が大切にしている保育を中心に伝えしている</p> <p>園見学を希望する保護者には、平日・土曜日を問わず随時受け入れを行っている。見学に際しては園長や主任が主に説明にあたり、入園してから困らないように園の特徴や普段の子どもの様子を伝えている。特に、「子どもの主体性を尊重する」という園が大切にしている、一斉保育ではなく子どもがやりたいことをやる、食事の量も子どもが決めるといった理念・保育スタイルや、子どもの欲求を保育士が拾って関わる様子などを中心に見てもらっている。また玄関に設置してあるモニターに子どもの日常の様子を映して視覚的にわかりやすいよう伝えられている。</p>		

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
2 サービスの開始・終了時の対応			
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリー2の講評			
<p>「入園のしおり」等をもとに園の重要事項を説明し、同意を確認している</p> <p>入園が決定した家庭には事前に個人調査票、写真等の同意書、「入園のしおり」等を送付し、「すべての子どもの最善の利益のために」という園の理念や保育目標、年間行事予定や一日の流れ、準備物や園のルールなどについてあらかじめ伝えている。「入園のしおり」に基づいて園長・主任が重要事項の説明・読み合わせを行い、質疑応答を経たうえで説明に関する同意としている。写真等をブログ・便りに掲載するといった広報での使用や写真販売を行うことについては同意書への記名を得ている。</p> <p>個別面談にて子ども・家庭の各情報を把握し、全職員で共有できるようにしている</p> <p>上記の重要事項の説明の後には個別面談を実施し、入園にあたって保育に必要な子ども・家庭の情報を把握している。個別の情報や保護者の要望等が記入された「個人調査票」をもとに面談を行い、成育歴や家庭環境、保健や食事に関する発達状況などを把握しており、必要に応じて栄養士や看護師も同席して詳細を確認している。なお、面談で聞き取った情報は「個人調査票」に記録されている。これらの情報は職員会議などで全職員への共有を図り、園全体で子どもの成長を支援できるようにしている。</p> <p>入園直後は「慣らし保育」を実施し、子どもと保護者の安定に配慮している</p> <p>入園直後は「慣らし保育」を実施している。1週間程度を目安としているが、子どもの様子や保護者の意向にも配慮しながら期間を決めている。「慣らし保育」の間中はすぐに保護者に連絡がとれるよう注意し、園での様子を細かく伝えるなど、保護者が安心できるよう配慮している。また子どもに対しては、職員の顔写真を貼り付けたカードを作り、子どもが自然と職員の顔等に慣れたり、愛着関係の構築のきっかけ作りに役立てるなど、子どもの安定に配慮した取組も行われている。</p>			

サブカテゴリ3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当
●あり ○なし	5. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○非該当

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3の講評		
子どもの成長や発達の様子等を記録し、保護者からの意見等も保育につなげている 子どもの個々の成長や発達の経過は、月齢や年齢に応じて更新の時期を定めて記録するようにしている。保育内容や活動等は、毎月の保育参観や年2回開催する保護者会を通じてスライド等も交えて説明している。保護者会の欠席者等にもプリントを配付したり、ブログ等でも子どもの活動を知らせている。また、個人調査票や面談記録の内容も加味して、保護者からの要望も踏まえて個別の指導計画に反映している。		
保育計画は個々の子どもの発達経過や遊びに取り組む状況を汲み取りながら作成している 日々の活動は、フロアごとに毎日ノートに記録し、週1回のフロア会議で協議し、週案の評価につなげている。その後各担当が取りまとめ主任に報告し、評価反省のうえで翌週につなげている。0~2歳児は個別に指導計画を作成し、日々の活動を確認のうえで発達記録と合わせて状況を記録するほか、3歳以上児では日々の姿をとらえ児童票に定期的にまとめている。天候等による計画の急な変更にはリーダー層が協議し、柔軟に対応できるようにしている。今後は、指導計画における期と月のねらいの整合を高める工夫にも期待したい。		
必要な情報をファイルやノートに記載し、会議で共有する仕組みが整えられている 日常保育の記録や家庭状況の把握は、0・1歳児と2歳以上児のフロアごとに複数の保育士が交代で作成し、確認するようにしている。また園全体で共有すべき情報は、所定のノートに記載し、パート職員も含めて回覧によって共有できるようにしている。さらに、緊急に相談等が必要な場合は随時の会議及びリーダー層による検討を行うこととしている。職員全体で共有すべき内容と判断した場合は、月1回の職員会議で報告や協議をするなど、年齢や状況に応じて対応するなど、組織内での情報共有の体制が整えられている。		

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和り取りする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
情報の取り扱いや子どものプライバシー等の配慮に努めている 個人情報の第三者提供は原則として保護者の同意のもとで行うこととするほか、「入園のしおり」に子どもの情報を園内外で使用するについて対応を記載し、保護者に説明を行っている。また着替えや排せつ等で配慮が必要な際や排せつで失敗した場合などでは子ども一人ひとりの状況に応じた配慮に努めている。職員間で保育士の適切な声掛けや対応について同じ視点で配慮が行えるよう共通理解を図るとともに、法人研修で学んだことを現場で活かすなど、プライバシーの配慮や一人ひとりを尊重する援助について継続的に学びを深めている。		
「誉める」声かけを意識し、個々を尊重した保育実践に努めている 法人内の新人研修で子どもへの適切な接し方・尊厳の尊重について学ぶ機会を設け、指導的ではなく、できたときに「誉める」声かけを意識している。子どもの生活習慣や価値観をできるだけ尊重し、寄り添って保育を行うようにしているが、状況によって判断に迷うときは「すべての子どもの最善の利益のために」という園の基本理念に立ち返って適切な支援や配慮が行えるよう心がけている。子どもへの接し方や言葉などについて日常の保育で気になった事や気づいたことがあったときは、その都度、職員同士で伝えあったり、職員会議で共有するなどしている。		
虐待の早期発見や適切な対応に向けた体制を整え、日々子どもの様子を観察している 法人が作成している「虐待対応マニュアル」の中に虐待の定義や種類、観察のポイントなどを記載し、入社前に全職員に配付している。入社時には読み合わせを行い、日常に潜む虐待の危険や早期発見のポイント、通報手順等を学ぶ機会が設けられている。日々の予防・発見の取組としては、着替えの時や食事の様子など、園での普段の様子を観察し、異変を感じた時は他の職員に相談し、情報を集めつつ園長に相談することになっている。また玄関には児童虐待について啓発ポスターが掲示されているなど、保護者に対する情報の発信も行っている。		

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
6	事業所業務の標準化	11/11
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー6の講評		
法人統一のマニュアルに加え、安全や保育での留意点を独自にまとめている 社会人としてのマナー、安全・衛生や人権配慮・虐待予防等の基本事項や考え方が記載された法人統一のマニュアルが整備されており、入社前に全職員に配付され、新人研修で学ぶ機会が設定されている。また安全や保育で気をつけることを明確化するため、保育を行う上での遊具の使い方や安全への視点、子どもに守って欲しいルールや保育士の関わり等の事項をまとめた「保育マニュアル」と、園庭や玩具の安全点検や室内の確認事項、災害時・不審者が来た時のために確認することをまとめた「安全管理マニュアル」を園独自に作成し、周知を図っている。 職員・保護者のさまざまな視点から意見を収集し、サービスの向上に取り組んでいる マニュアルに定めた手順に変更が必要な場合にはその都度、各委員会で検討のうえ改定することとしている。また、定期的にマニュアルの内容が現場の状況に即しているか確認が行われているほか、時期を決めて職員にアンケートを実施して意見の収集を行っている。行事アンケートや個人面談などで保護者から得られた意見も集約して手順変更の材料とし、「フェスティバル」(発表会)において子どもと保護者が一緒に他のクラスの発表を見ていたが、座席を別々にすることで、子どもがじっくりと見ることができ工夫を行っている。 さまざまな方法によって、サービスの標準化と質の向上に取り組んでいる 法人統一の「新人職員スタンプラリー」を用いて、調乳のやり方・散歩の行き方・掃除の仕方等の基本事項を一通り指導できているかチェックするほか、新任職員研修の資料を園独自で作成し、書類の扱い・勤務の注意・連絡帳等の書き方・嘔吐物の処理などを学ぶ機会を用意している。また東京都や小平市等の研修会に参加しているほか、他法人の共感する保育観の学びを深める「誉める保育の研修」を行っており、実際に保育の現場に入る実践研修や見学形式の「互見会」などで職員の関わりや環境構成の工夫など目指す保育実践に向けた取組を進めている。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	35 / 37
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけができるよう、環境構成を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>子ども同士の関わりから学び、主体的に育ちあう環境を提供している</p> <p>子ども一人ひとりの発達は、個別面談や発達シートで確認し、指導計画や児童票で振り返りながら把握するようにしている。園内は0・1歳児、2歳以上児の2つのフロアに分かれて異年齢での活動が行われ、衣服の着脱や食事、遊びの場面で年下の子どもの真似をしたり、憧れを持って関わるほか、難しいところを手伝ったり、世話をする場面も見られるなど、子ども同士の関係から自然な育ち合いが生じている。なお、現場では必要な時以外は見守り、また一人ひとりを見れるように複数名の保育士がチームで見守る体制を整えている。</p> <p>異年齢保育を通して、相互の気持ちの理解や思いやりの気持ちが育まれている</p> <p>2つの保育フロアでは異年齢とすることで無理なく遊びに参加できるようになり、ままごと・楽器・造形表現など室内での遊びが行われるとともに、貸し借りをしたり、他の子どもが取り組むことを待って順番で行うこともあるほか、園庭では砂場で遊具の分け合いをしたり、すべり台・乗り物を順番で使用するなど、さまざまな年齢で他児との関わりが生まれ、体験を重ねながら、相手を理解したり、思いやる気持ちが育まれている。また自信を持ち自分を大切にすることを育みながら、発達上の課題や苦手意識を自ら克服できるようにもなっている。</p> <p>保育士が手本となることで相手を尊重する心が育つように配慮している</p> <p>生活の上ではいけないことや危険を伴う行動以外では、保育士が子ども一人ひとりの存在そのものを愛し、子どもの人格を尊重するように心がけている。また大人が手本となることで子どもも相手を尊重し、認め合うような心が育つように配慮している。子ども同士のトラブルの際は、まず子ども同士で解決できるかを見守り、年齢や発達の状況を踏まえて保育士が介在しながら互いの気持ちを汲み取り、気持ちを代弁するなどそれぞれの思いを共有できるようにしている。対応した事例はフロア会議を通して状況を共有・分析し、次なる配慮へとつなげている。</p>			

2 評価項目2 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2の講評		
<p>送迎時の保護者との連携に努め、子どもの様子等を伝えあっている</p> <p>前夜からの子どもの体調や様子など、保護者から口頭と連絡帳で伝えられた内容は、担当保育士が受け渡しファイルに記録している。また、登園時に保育士の視診や触診による体調の確認と必要時の看護師の対応も行うようにしている。日中の子どもの様子や健康状態などは各種の記録様式を用いて、職員間での情報共有ができるようにしている。これらを踏まえ、お迎え時にその日の様子を保護者に伝えている。また連絡帳でのやり取りとともに、玄関での一週間の様子を写真のスライドで流すなど、口頭以外でも園での様子がわかるようにしている。</p> <p>日頃からの積み重ねから自然と生活習慣の自立につながっている</p> <p>着替え、排せつ、清潔などの基本的な生活の動作については、成功体験を大切にしつつ無理なく発揮されることを踏まえつつ、登園時の様子や家庭状況の把握からその日の子どもの体調や心情を理解するようにし、発達の状況も踏まえて場面に応じて適切な声掛けと見守りの対応をしている。また子どもが遊びを選び、取り組む中でも自然と発達が促されるようになっているほか、異年齢での保育の中で子ども同士のやりとりや他の子どもの取り組む姿を見て、学んだり、意欲が高まることにもつながっている。</p> <p>一日の活動と休息のバランスを考慮しつつ、それぞれに応じて休息できるようにしている</p> <p>日々の保護者とのコミュニケーションを図り、前日からの体調や生活リズム等を把握し、一人ひとりの状況に応じた睡眠・休息の保障を行っている。子どものリズムに合わせた活動・食事・睡眠などができるよう子どもの意思も確認するほか、日中にもゆったりとできるようなスペースを設け、休息ができるようにしている。また午睡をしない場合など保護者の要望があればそれを考慮しつつ無理に寝かしつけることをせず、横になって身体をやすめるようにするなど、一日の活動と休息とのバランスに配慮した対応をしている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	4. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>育ってほしい子どもの姿を実現する環境とそれを支える保育士の姿勢がある</p> <p>園の保育目標として、やりたいことがある、やりたいことができるを目標にしている。保育内容では子ども一人ひとりの自発的・主体的な取組による自己実現の達成を保証しながら、異年齢での集団の学び合いの中で豊かな人間関係が形成されるようにしている。0～2歳児では発達記録から個別に月の指導計画を作成し、個々の状況に応じた指導に活かしている。日々の生活においては子どもの意思等を尊重しながら、自発的な活動ができるよう室内環境を整え、自らの伸びようとする力を職員が支えられるようにしている。</p> <p>子どもの自発性や自主性を尊重しながら、さまざまな遊びが展開できるようにしている</p> <p>ままごとや造形の遊び、砂場遊びや散歩など園中外を問わず子どもがやりたいと思ったことをその時にできる機会と場の提供をできるようにしており、子どもの自発性・自主性を尊重し、遊び込む中で充実感を味わえるようにしている。給食の時間にもその子のお腹のすき具合に応じて柔軟に対応することで、遊びを継続できるようにも配慮している。また他児が遊んでる様子を見て、自分も参加したいという気持ちが芽生え、それを意思表示できるようにも配慮するほか、子どもの要望にも柔軟に答えながら、遊びの発展が生じるようにしている。</p> <p>戸外活動で身近な自然に触れたり、子どもの興味から活動の発展がもたらされている</p> <p>園の周辺にある農園の協力により、一年を通して自然散策や虫の採集、野菜等の生長の観察や収穫体験ができる環境がある。また生き物の飼育をして図鑑で調べて興味がひろがったり、野菜の栽培にも取り組み、調理活動に活かすなど、その後の活動が発展している。また園庭で思い思いに体を動かして遊ぶほか、近隣の稲荷神社に出かけて樹木に触れたり、枝葉や木の実を持ち帰って造形表現に採り入れ、季節を感じられるようにしている。さらに5歳児は六都科学館に行き、科学や宇宙の神秘にふれるなど、体験を通じて子どもの興味がひろがるようにしている。</p>		

4 評価項目4 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保育所の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>年間を通じて季節・文化を感じる行事と子ども一人ひとりの特別な日を祝う機会がある</p> <p>年間を通じて季節や伝統文化などを体験できる行事があり、制作や食育などさまざまな活動を織り込んでいる。夏の夕涼み会では出店や盆踊りで楽しんだり、餅つきでは鏡餅の制作に取り組んでいる。また豆まき・ひなまつりなどでは絵本や紙芝居などで節句に関する物語で親しみが持てるようにしている。またその子の誕生日には幼児において隣接のケーキ屋で好きなケーキを購入したり、すべてのクラスでフロアの子どもや保育士がお祝いの歌やカードをプレゼントするなど一人ひとりの特別な日を大切にしている。</p> <p>行事のみならずその過程も含め、保護者の理解が得られるようにしている</p> <p>日々の保育活動で制作した作品を各フロアの通路や壁面、玄関に飾り、子どもや保護者が閲覧できるようにしている。その際、完成に至る子どもの心情意欲や作品への思いを保育士がコメントを添えて保護者に伝えている。「もりんびっく」(運動会)や「フェスティバル」(発表会)では日頃、取り組んできた内容を発表するほか、造形制作・描画表現の成長展の催しを行う中で子どもが自分の思いを表現するとともに、保護者にも子どもの成長の姿やその状況がわかるようにしている。また動画やスライドを交えて日常の活動や練習の様子などの過程も伝えている。</p> <p>地域の方や系列園の子どもなど職員以外の人との交流がひろがりつつある</p> <p>散歩に出かけた際には道中で出会う方などとの挨拶を交わすなど地域とのつながりが持たれている。また系列園の子どもとの交流機会も設けられ、しっぽとりゲームや宝探しなどの遊びを通じて、より大きな集団での交流を深めるほか、お泊りキャンプは合同で実施することで親元を離れて過ごす中で絆を深めている。また中学生の職場体験の受け入れによって新たな出会いと触れ合うがもたれるなど職員以外の人との交流がひろがりつつある。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる	○非該当
●あり ○なし	4. お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>家庭的な雰囲気や環境設定の工夫をし、保護者への伝達漏れもないようにしている</p> <p>夕方の保育においては時間や人数に応じて、2階のフロアに集まり、お迎えまで一緒に過ごすことになっている。園内は建物自体を一つの大きな家と考え、室内に木製の家具や観葉植物、やわらかい照明などを設置したり、温度・湿度などにも気を配り、家庭的な雰囲気となるよう工夫しており、安心してお迎えを待つことができるような環境面での配慮がなされている。また受け渡しノートを活用した職員間の報告・連絡・相談を密に行うことに努めるとともに、その日の遅番担当に確実に情報を引き継ぎ、保護者へ連絡事項が伝わるようにしている。</p> <p>長時間の生活でも日中の保育活動と変わらない環境を提供し、情緒の安定に配慮している</p> <p>長時間にわたる生活も、異年齢で過ごすこと、好きな遊びを選択して遊ぶ、という昼間の活動と変わらない環境の中で過ごすことで、お迎えまで落ち着いてくつろげる雰囲気となるよう配慮している。またダンスなどして遊びたい子どもにはスペースを確保するなど、子どもの要望に応えられるようにしている。さらに、年上の子どもが年下の子どものお世話をする場面も見られ、互いに遊びや活動が豊かになるような状況がある。なお、はじめて延長保育を利用する子どもには保育士によるスキンシップを密に行うなどして不安を和らげるよう配慮している。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>家庭的な雰囲気楽しく食べるための仕組みや環境を整えている</p> <p>食事の時間帯の中で子どもが空腹感を感じた時に食事ができるようにしている。配膳の際には職員の見守りのもと、年齢に応じて子ども自身が喫食の量を判断できるようにするなど個々に応じた配慮を行いながらも、他の子どもと一緒に楽しく食事ができるよう配慮している。献立は日変わりで提供され、旬の食材も採り入れた多様なメニューを提供しており、行事にちなんだものも提供し、盛り付けや彩りの工夫を凝らし、子どもの食べる意欲を高めている。また玄関での食事の展示や食育便りの発行など、保護者も食への関心が持てるようにしている。</p> <p>子どもの体調や個別状況に応じ、安全な食事の提供に努めている</p> <p>食物アレルギーのある子どもには栄養のバランスの偏りに可能な限り配慮することを保護者に説明している。また医師の指導のもとで、除去もしくは代替食の対応を行っている。また提供の際には、トレイの色を変えて視覚的にも間違いがないよう工夫するほか、配膳前には複数名での確認を行うなど、事故予防に努めている。また体調がすぐれない場合や乳児の離乳食は、保護者への確認や看護師の判断等により、米飯の柔らかさや量を調整して、無理のないように体調や発育に合わせて対応している。</p> <p>栽培・調理の活動などさまざまな機会を通して、食に関心を持てるようにしている</p> <p>園庭ではトマトや枝豆などの野菜を栽培し、収穫や調理などで食材に触れる機会を設けている。また年齢に応じて器具を使った調理活動が行われたり、年長児はお泊りキャンプでカレー作りに挑戦するなど、これらの取組を通じて食の大切さや有難さを感じ、食べる意欲の向上や苦手なものを食べられることにもつなげている。また近隣にある農場の協力によって栽培や収穫の体験ができるようになっており、親子が参加して収穫後とうもろこしの皮むきやブルーベリーのジャム作りに取り組み、試食する機会も設けている。</p>		

7 評価項目7		子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている			○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている			○非該当
●あり ○なし	3. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている			○非該当
評価項目7の講評				
<p>日常の保育の中でケガ・事故の予防に向けた各種の指導が行われている</p> <p>園庭遊びでの遊具の使い方や園外の散歩での交通ルールのほか、室内でははさみの使い方など、日常の保育の中で子どもに対して安全に関する指導を随時行っている。起きてしまったケガや事故は即時の共有と再発防止のための検討がなされている。病気の予防の取組としては、看護師から手洗い・歯磨きの指導を実施しており、紙芝居やイラスト、歯型の模型等を用いて行うなど子どもが興味を持って楽しく取り組めるようにしている。なお、今年度、歯磨き指導の際には5歳児を対象として染め出しが行われ、洗い残しが視覚でもわかりやすいよう工夫している。</p> <p>定期的な健康診断や随時の相談を受け付けており、医療機関との連携体制も整えている</p> <p>「入園のしおり」に「薬と与薬のルール」を明記し、保育中の投与が必要な場合には医師の処方薬に限り「薬の預かり・与薬依頼書」等とともに必ず手渡しで預っている。内科健診と歯科健診を年2回、0歳児健診と身体測定を毎月実施して子ども一人ひとりの健康状態の把握に努めているほか、栄養・育児・健康面での相談も随時受け付けており、保護者との連携をもとに支援を行っている。緊急時には応急処置や医療機関との連携がとれるよう、近隣の病院を一覧にまとめ、救急車を呼ぶ時の手順や異物を飲み込んだ時の対応方法を職員室に掲示している。</p> <p>さまざまな病気予防の取組があり、保護者への保健情報の発信・啓発に努めている</p> <p>「入園のしおり」に感染症の情報や、乳幼児突然死症候群(以下、「SIDS」)予防についての園での取組、病気と薬についてのなどの情報を記載し、園見学や入園時に園の保健に関する姿勢や取組を保護者に伝えている。SIDS予防に向け、乳児は呼吸・顔色・姿勢などを定期的に確認している。また毎月、看護師が保健便りを発行し、感染症予防や健康管理の知識や情報を保護者に提供している。また、玄関には感染症の情報や「小児救急でんわ相談」のポスターなどが掲示しており、自治体からの情報もその都度知らせている。</p>				

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の就労状況や急な要望に対して柔軟に支援ができる体制を整えている</p> <p>保護者が安心して仕事と子育てが両立できるように、柔軟な支援体制を整えている。「入園のしおり」に延長保育や土曜保育について明記し、特に利用料金については具体的な例を用いてわかりやすく説明している。延長保育や土曜保育などの保護者の要望にはできる限り柔軟に対応しており、急な残業や交通機関の遅延等にも応じている。保護者参加行事の日程は参加しやすい土曜日に設定しており、「フェスティバル」(発表会)の参加が難しい保護者には平日に実施しているリハーサルの見学を案内するなどの配慮も行っている。</p> <p>日々保護者とコミュニケーションを取り、保護者同士が交流できるよう工夫している</p> <p>保護者の状況については、入園時の面談や提出書類、保護者会や個人面談等で把握し、日々の送迎時に積極的なコミュニケーションを図っている。保護者会ではスライド・動画・写真などの資料等を用いて、散歩・給食・表現活動・掃除など日常の子どもの様子を紹介している。またディスカッションや質疑応答、保護者からの悩みにおいて、職員が答えるだけでなく、保護者が育児経験などから考え方を発言して共感が得られることもあるなど、保護者同士のコミュニケーションの場にもなっている。</p> <p>日々保護者の意向の把握と対応に努め、子育てに関する情報発信が行われている</p> <p>日常の保護者とのコミュニケーションに加え、保護者会や個人面談の機会、「ご意見ポスト」の常設など、さまざまな形で保護者意向を把握できるよう努めている。「もりんびっく」(運動会)において「子どもと参加がしたい」という保護者の意見を受け、プログラムに「かるためくり」という親子競技を採り入れるなど具体的な改善事例も見られる。また他園の副園長や研修を受けた職員が講師となり、育児講演会が実施され、表現活動や保育についてなど、子育てに関する情報発信や、保護者と園との理解を深める取組が行われている。</p>		

9 評価項目9 地域のニーズに即した子育て支援を実施している		評点(○●●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域における在宅子育て家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している	○非該当
○あり ●なし	2. 地域における在宅子育て家庭同士が交流できるような支援を行っている	○非該当
○あり ●なし	3. 提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域への子育て支援の発展に向け、今後の企画検討とその実現に期待したい</p> <p>定期利用保育事業を実施するとともに、中学生の職場体験の受け入れが開始されている。ただ、開園3年目の本園においては待機児童の解消に貢献すべく、入所による子どもの受け入れを積極的に行っているところであり、地域子育て支援の充実には至っていない。今後、地域の子育て支援家庭のニーズ把握やそれを踏まえた具体的な企画検討など、地域の子育て支援に向けての取組が実現されることに期待したい。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	自主・自発的な活動を支えるコーナー配置と玩具・素材の充実を図っている	
内容①	異年齢の遊びを豊かに展開できるようにコーナーを配置し目的に合った多種多様な遊具・素材を提供しており、描画や絵本コーナーなど静かに取り組む場所は他の遊びが干渉しない配置としている。保育室に隣接する倉庫には保護者から提供されたりサイクルできる廃材も含めた素材等を保管しており、活動状況を見て補充や入れ替えが速やかにできるようにするほか、玩具を手作りしたり、外活動で観察や栽培の道具を新たに提供している。これらは職員間での意見交換を図りながら、より子どもの興味や発達に即した内容となるよう検討を重ねている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている
タイトル②	各種の委員会活動が行われ、職員主導のもとさまざまな取組が行われている	
内容②	開園2年目に各種委員会が発足し、多様な活動が行われ、園長主導ではなく職員の主体性を尊重した取組が行われている。園内の清掃や衛生管理について担当する「保健・衛生委員会」やブログの作成・内容確認を担当する「広報委員会」などがあり、それぞれの分野で現状をより良くしていくための取組が行われている。特に「保育委員会」と「安全委員会」では保育の質向上に向けて、サービスの提供手順見直しの活動が行われており、職員間によって実務にバラつきが出ないように統一した手順を検討し、周知を図っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-2-1	職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる
タイトル③	職員の主体性を尊重しながら、働きやすい組織風土づくりに努めている	
内容③	園に集う大人も自発的に行動・判断ができるよう、自分で考えて行動し、それを褒められて次のチャレンジができるような環境を整えつつ、自主性の幅を広げられるようにしている。職員に対しては面談や日々のコミュニケーション等を通じて園内での疑問点等を聴き取り、それを解決できるような支援に努めるほか、経験年数等に縛られることなく、会議等での活発な意見交換ができる環境づくりを行っている。これによって職員の帰属及び参画意識が高まり、委員会活動等での自発的な改善活動と職場の良い雰囲気づくりにもつながっている。	

No. 特に良いと思う点		
1	タイトル	異年齢保育を支える環境設定とチーム保育体制の推進により、「誉める保育」が日々の中で展開され、子どもの自尊感情や意欲を育てている
	内容	園の理念や保育目標を達成するため異年齢の状況を生活全般で実施しており、小さな集団の活動が園舎の内外で同時にできるようチーム保育で対応している。多種多様な遊びの環境が園の中・外の両方で提供されており、自発的・自主的に遊びの場所を選び、遊び相手を探して活動ができるようになっている。また子どもが活動での目的を達成したり、手伝いや世話をを行う場面を保育士が見守り、言葉かけと身振りなどで誉め、さらに周囲の保育士も同様に誉めることで、子どもが自信とやる気を抱き、自尊感情を育むことにつながっている。
2	タイトル	行事が日常生活から取り組んだ自己表現の達成の場として提供され、保育目標を実現する環境が整えられている
	内容	子ども一人ひとりが自分なりに表現することを育み、楽しんで発表することを保育目標に掲げている。専門講師の指導によるオペレッタや造形の学びから日常の遊びにつなげ、そこから行事へと発展させる環境が提供されている。「もりんびっく」(運動会)や「フェスティバル」(発表会)等の行事では、日常保育で発語から始めて取り組んできたオペレッタやダンス、体操運動の取組を発表したり、造形・描画などに取り組み、成長展として保護者に見てもらったり、行事の機会を通じて、子どもが自己表現ができる場となっている。
3	タイトル	さまざまな取組を通じて保育理念や方針などを発信しつつ、保護者との相互の関係性や理解を深められるようにしている
	内容	法人の保育理念や方針等に基づいた運営が行われており、「誉める保育」等のもとで保育士が見守りながらも子どもの主体的な園での生活や活動を支えられるようにしている。これらの思いは各種の便りや保護者会での説明、育児講座などで保護者に発信するほか、行事等で子どもの姿を見もらうことで実感してもらえるようにしている。また保護者が安心して就労等と子育てが両立できるよう、柔軟な配慮を行うとともに、さまざまな要望等の把握とその解決にも取り組むなど、園と保護者との相互理解も深められるようにしている。
No. さらなる改善が望まれる点		
1	タイトル	園の目指す中長期的な展望の可視化と計画的な実行に向けた仕組みの確立も検討されたい
	内容	法人が31年度までの5か年の事業計画を策定し、系列園園長会などで共通理解が図られており、園単位では、保育の質の向上の前提である物的・人的環境の充実などの重点課題を年間事業計画に定めている。「誉める保育」の理解・実践や働きやすい職場づくりに向けた組織風土の醸成、地域子育て支援事業の展開と地域との連携の強化など、注力すべきその他の事柄を含め、課題を中・長期的な観点で明確にし、現場の総意のもとで計画的に行うことも検討されたい。
2	タイトル	個々の育成をさらに後押しするための現状の仕組みをさらにバージョンアップされたい
	内容	園長と各職員との面談によって各人の意向・要望、職員としての目標や成長・啓発希望などを把握し、これをもとに個別の指導や各種の研修への派遣などを行うとともに、有識者を招いて分野別に保育の知見を深める法人内研修に加え、提携する法人の支援を得て行う「誉める保育園見学会」や法人内の主任保育士を中心とした「互見会」などの研鑽を図っている。ただ個々の課題・目標や必要な研鑽の明示、定期的な達成評価など個々の育成の後押しをする個別の計画、及びキャリアパスイメージの構築など、仕組みのバージョンアップにも期待したい。
3	タイトル	職員を主体としたマニュアルの整理とその浸透に向けた継続的な取組が園全体のさらなる底上げへとつながることに期待したい
	内容	法人として各種規程や保育目標をはじめ、多種多様な事項をまとめたマニュアルを作成しており、入社時に常勤職員に配付している。園では各種の委員会活動の中で安全や保育で留意点を検討しあい、それを文書化して園の現状に即した独自のマニュアルを作り、サービス提供手順の標準化と質の向上に努めている。これらの取組を進めつつも、系列園共通のマニュアルの整理とその浸透に向けた取組などを組み合わせながら、園全体のさらなる底上げへとつながる取組が継続的に行われることに期待したい。